農産物の温室効果ガス (GHG) 簡易算定シート 操作マニュアル 【Ver.2.0】

令和7年4月 農林水産省みどりの食料システム戦略グループ 地球環境対策室 本書は、農産物に由来する温室効果ガスの排出量を簡易に算出するため、農産物の温室効果ガス簡易算定シート(以下、簡易算定シート)をどのように利用するかを簡易に説明したものです。環境負荷低減の見える化に関する全般的な情報を知りたい場合には、「農産物の環境負荷低減に関する評価・表示ガイドライン」をご参照ください。

<目次>

- 1. 利用に必要な準備
- 2. 生産者情報の入力
- 3. 簡易算定シートへのデータ入力
- 4. 簡易算定シートの算定結果の見方

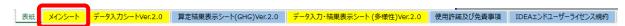
1. 利用に必要な準備

簡易算定シートは、マイクロソフト社の表計算ソフトであるエクセルにより温室効果ガス排出量を算定します。表計算ソフトが利用できるパソコンでご利用ください 1 。動作は、Microsoft® Excel® for Microsoft 365 MSO で確認しています。ファイルを開いた際に、保護ビューのままにしておくよう警告が出た場合には、「編集を有効にする」をクリックし、データが入力できるようにしてください。



2. 算定者情報の入力

本簡易算定シートを使用し、等級ラベルを使用する際には、農林水産省に対して算定結果の報告をお願いしています。算定結果の報告の際には、メインシートの黄色のセルに必要な情報を記入してください。



1 スマートフォンやタブレット上での動作確認はしていません。

- 2 -

.

①算定者/団体情報入力	
簡易算定シート利用時にはこちらの記入をお願いいたしま	す。
算定者/団体情報入力	
算定者の氏名または団体名称(必須)	OO会社
住所または所在地(必須)	東京都千代田区〇〇〇
代表者名(必須)	算定 太郎
担当部署名(必須)	なし
電話番号(必須)	03-***
メールアドレス(必須)	******
生産者/団体情報入力	
生産者の氏名または団体名称(必須)	算定 次郎
算定結果の取扱い	
登録番号と当該品目名は農林水産省のHPで公表します。 (必須)	了承済み
・算定者の氏名または団体の名称 ・生産地(都道府県) を農林水産省のHPにて公表を希望されますか。(必須)	希望する
・生産者の氏名または団体の名称 ・生産地(都道府県) を農林水産省のHPにて公表を希望されますか。(必須)	希望する
使用許諾及び免責事項	使用許諾及び免責事項
使用許諾及び免責事項(必須)	私は使用許諾及び免責事項を読んでその 内容と条件を完全に理解し、同意しま す。
IDEAのライセンス規約への同意	<u>IDEAエンドユーザーライセンス規約</u>
IDEAエンドユーザーライセンス規約(必須)	私はIDEAエンドユーザーライセンス規約 を読んでその内容と条件を完全に理解 し、同意します。

データ入力後、「②栽培データ入力」をご確認ください。必須項目を全て入力することで、次のデータ入力シートへ栽培情報が入力できるようになります。

・必要事項が全て入力されている場合 メインシートの②に「データ入力シートへ進んでください。」と表示されます。

②栽培データ入力

データ入力シートへ進んでください。

・必要事項に不備がある場合

「入力不備がございます。再度、①算定者/団体情報入力をご確認ください。」 と表示されます。入力漏れ等がないか等ご確認ください。

②栽培データ入力

入力不備がございます。再度、①算定者/団体情報入力をご確認ください。

3. 簡易算定シートへのデータ入力

「データ入力シートへ進んでください。」と表示されたら、データ入力シートで栽培 情報の入力へ進んでください。

表紙 メインシート データ入力シートVer.2.0 算定結果表示シート(GHG)Ver.2.0 データ入力・結果表示シート(多様性)Ver.2.0 使用許諾及び免責事項 IDEAIンドユーザーライセンス規約

メッセージ右部の「データ入力シートに進むには、こちらをクリック」をクリックすることで、データ入力シートに進むこともできます。

②栽培データ入力	
データ入力シートへ進んでください。	入力不備がある場合は、个を確認
	データ入力シートに進むには、こちらをクリック

(1) 基本情報等の入力

基本情報、作物残さの取扱い(米、野菜)、水田の湛水方式(米のみ)、土壌への炭素 貯留の取組、緑肥の使用(米、野菜)、果樹園の草生栽培の有無(果実のみ)、水田の 秋耕の取組(米のみ)、の入力は<u>必須</u>です。以下の黄色のセルについて、選択項目は選 択肢から選択し、数値入力項目は数値を直接入力します。

基本情報 品目 新潟県 生産地 (都道府県) 栽培延べ面積 10.0 a 600 kg 延べ収穫量 算定実施日 2024年3月1日 栽培期間 2023年1月1日~2023年12月31日 作物残さの取扱い 前作の米の作物残さの取扱方法 すき込み データを入力 前作の米の栽培延べ面積と収穫量 前作の米の栽培延べ面積 10.0 a 前作の米の延べ収穫量 500 kg 水田の湛水方式(品目が米の場合のみの選択項目です) 湛水方式 間断灌漑 中干し期間の延長あり(慣行の日数に比べ、 中干し期間の延長 中干し期間を7日間以上延長した場合) 土壌への炭素貯留の取組 バイオ炭の施用 なし 緑肥の使用 緑肥の種類 投入なし 水田の秋耕の取組 秋耕の取組

数値を入力するセルには、<u>数値のみ</u>を入力します。

kg などの単位が一緒に入力されていると、正しく算定できませんので、確認してください。

(以下は米のシートですが、基本操作は同じです。)

選択項目を入力する場合には、該当のセルを選択するとセルの右側にドロップダウンのボタンが現れます。

これをクリックしてドロップダウンリストを表示し、適切な内容を選択してください。

水田の湛水方式(品目が米の場合のみの選択項目です)

湛水方式	間断灌漑	←(į
中干し期間の延長	1 1 Daniel Service (Rijes Harris	←(i 中=

作物残さの取扱い

前作の米の作物残さの取扱方法	すき込み	-
前作の米の栽培延べ面積と収穫量	すき込み	
前作の米の栽培延べ面積	── 焼却── 残渣持ち出し(圃場外での利活用等(ただし焼却は除く)	`
前作の米の延べ収穫量	残渣持ち出し (圃場外での利活用等 (ただし焼却は除く) 500 kg	j—ū

ドロップダウンリストが現れま す。目的の内容を選択します。

水田の湛水方式 (品目が米の場合のみの選択項目です)

湛水方式	間断灌漑	← (1
中干し期間の延長	中干し期間の延長あり(慣行の日数に比べ、 中干し期間を7日間以上延長した場合)	⊕(††

数値を入力する項目(栽培延べ面積、延べ収穫量等)はセルに<u>数値のみ</u>を直接入力してください。各データの説明は以下をご覧ください。

基本情報

<u> </u>	
品目	対象農産物を米(露地)、トマト(露地または施設)、きゅうり(露地または施設)、なす(露地または施設)、ほうれんそう(露地)、白ねぎ(露地)、たまねぎ(露地)、はくさい(露地)、キャベツ(露地)、レタス(露地)、だいこん(露地)、にんじん(露地)、アスパラガス(露地)、ミニトマト(施設)、いちご(施設)、ピーマン(露地または施設)、りんご(露地)、みかん(露地または施設)、ぶどう(露地または施設)、日本なし(露地)、もも(露地)、ばれいしょ(露地)、かんしょ(露地)、茶(露地)から選択します。
栽培都道府県	栽培した都道府県を選択します。
栽培延べ面積	栽培期間中に対象農産物を作付けした延べ面積を記入 (単位: アール(a))。
延べ収穫量	栽培期間中に収穫した対象農産物の延べ収穫量を記入 (単位:kg)。
収穫量の形態 (茶のみ)	荒茶/生葉から選択します。
算定実施日	当該算定シートの入力が終了した日を入力してください。なお、 算定実施日から1年が経過した場合は、再算定が必要です。
栽培期間	前作(品目は問わない)の最後の収穫の直後を起点とし、当該作の 最後の収穫調整までを栽培期間として記入してください(最大1 年間)。

作物残さの取扱い方法と量(米)

前作の米の作物残さの取扱方法	前作の米の作物残さの取扱いについて、すき込み/焼却/残さ持ち出し(圃場外での利活用等(ただし焼却は除く))から選択します。
前作の米の栽培延べ面積と延べ収穫量	前作の米の延べ収穫量、栽培延べ面積がわかる場合は「データを入力」を選択してください。前作の米の延べ収穫量、栽培延べ面積の入力が難しい場合は、「不明」を選択してください。
前作の米の栽培延べ面積	前作の米を作付けした延べ面積を入力してください。二毛作や輪作をしており、前作が米以外(二毛作で麦や大豆などを作付けしている)の場合は、その前作以前、直近で米を作付したときまで遡り、作付けした圃場の延べ面積を入力してください。
前作の米の延べ収穫量	前作の米の延べ収穫量を入力してください。二毛作や輪作をしており、前作が米以外(二毛作で麦や大豆などを作付けしている)の場合は、その前作以前、直近で米を作付したときまで遡り、その米の延べ収穫量を入力してください。

作物残さの取扱い方法(野菜)

	当該作の作物残さの取扱いについて、すき込み/焼却/残さ持ち
作物残さの取扱方法	出し(圃場外での利活用等(ただし焼却は除く))から選択しま
	す。

水田の湛水方式 (米)

湛水方式	間断灌漑/常時湛水から選択します。栽培期間中に中干しした場
	合は間断灌漑、中干ししなかった場合は常時湛水を選択してくだ
	さい ² 。
中干し期間の延長	JAの栽培暦や、都道府県等が発行する栽培技術情報等に示され
	ている、当該作を行う地域で慣行とされている中干しの日数に対
	し、中干し期間を7日間以上延長した場合に「中干し延長」とみ
	なします。

土壌への炭素貯留の取組

バイオ炭の施用	土壌へのバイオ炭の施用の有無(あり/なし)を選択します³。
バイオ炭の種類	白炭/黒炭/竹炭/粉炭/オガ炭/家畜糞尿由来(熱分解)/家
	畜糞尿由来(ガス化)/木材由来(熱分解)/木材由来(ガス化)
	/草本由来(熱分解)/草本由来(ガス化)/もみ殻・稲わら由
	来(熱分解)/もみ殻・稲わら由来(ガス化)/木の実由来(熱分
	解) /木の実由来(ガス化) /製紙汚泥・下水汚泥由来(熱分解)
	/製紙汚泥・下水汚泥由来(ガス化)から選択します。
	※選択項目にない種類のバイオ炭は現時点で対応していません。
バイオ炭施用量	栽培期間中に土壌へ施用したバイオ炭の量を入力します(単位:
	kg/10a)。

⁻

² 湛水方式の区分「間断灌漑」と「常時湛水」は、日本国温室効果ガスインベントリ報告書 2023 における水田の区分、つまり「間断灌漑水田(中干しされる水田)」と「常時湛水田」にそれぞれ準じています。

³ バイオ炭の施用状況は、土壌への炭素貯留量の算定に反映されます。この算定式は、J-クレジット制度の方法論「バイオ炭の農地施用」に基づくため、「バイオ炭」として入力してよいものか迷う場合は、J-クレジット制度の方法論「バイオ炭の農地施用」

⁽https://japancredit.go.jp/about/methodology/) を参照してください。

緑肥の施用(米、野菜)

	投入なし/トウモロコシ/ソルゴー/エンバク/ライムギ/そ
	の他ムギ/シロカラシ/キカラシ/レンゲ/ダイズ/クローバ
	/ルーピン/その他から選択します。緑肥を使用した場合は使用
緑肥の種類	した緑肥を選択(緑肥は圃場全体に作付けしている必要がありま
	す。また、作物体は全量すき込む必要があります。)、実施しなか
	った場合はなしを選択してください。選択項目にはない種類の緑
	肥を使用した場合は「その他」を選択してください。

果樹園の草生栽培の有無(果実のみ)

 草生栽培の有無	あり/なしから選択します(果樹園の一部ではなく、全体が下草
早生秋垣の有無	で覆われている必要があります)。

秋耕(米)

	あり/なしから選択します。圃場の作物残さのすき込みの時期に
和耕のTryAP	ついて、何の作物残さかに関わらず、当該作を実施する前年の秋
秋耕の取組 	までに作物残さをすき込んだ場合は「あり」、前年の冬以降に作
	物残さをすき込んだ場合は「なし」を選択してください。

(2) 資材等の投入量の入力

農薬使用量、肥料使用量、プラスチック資材、燃料・電力使用量の入力項目に、データを入力します。データの入手が困難な入力項目については、「標準値を使う」を選択することで、栽培地域に応じた標準活動量を使用することも可能です(詳細は、p11-12(注釈1)(注釈2)を参照)。

入力項目						
農薬使用量	データ	標準活動量(自動入力)	データ単位	データ入力	温室効果ガス排出量	標準値との差分
殺虫剤	<mark>データを入力する</mark>		重量 (kg)	0.00 kg/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-100.0%
殺菌剤	データを入力する		重量 (kg)	0.00 kg/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-100.0%
その他農薬(殺虫殺菌剤等)	<mark>データを入力する</mark>		重量 (kg)	0.00 kg/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-100.0%
除草剤	<mark>データを入力する</mark>		重量 (kg)	0.00 kg/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-100.0%
肥料使用量	データ	標準活動量(自動入力)	データ単位	データ入力	温室効果ガス排出量	標準値との差分
窒素肥料(N成分量)	<mark>データを入力する</mark>		重量 (kg)	0.00 kg/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-100.0%
リン肥料(P ₂ O ₅ 成分量)	<mark>データを入力する</mark>		重量 (kg)	0.00 kg/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-100.0%
カリ肥料(K ₂ O成分量)	<mark>データを入力する</mark>		重量 (kg)	0.00 kg/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-100.0%
** 堆肥	<mark>データを入力する</mark>		重量 (kg)	0.00 kg/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-100.0%
プラスチック資材	データ	標準活動量(自動入力)	データ単位	データ入力	温室効果ガス排出量	標準値との差分
農業用塩化ビニルフィルム	<mark>データを入力する</mark>		重量 (kg)	0.00 kg/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-100.0%
その他プラスチック類	<mark>データを入力する</mark>		重量 (kg)	0.00 kg/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-100.0%
燃料・電力使用量	データ	標準活動量(自動入力)	データ単位	データ入力	温室効果ガス排出量	標準値との差分
ガソリン	<mark>データを入力する</mark>		体積 (L)	0.00 L/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-100.0%
軽油	<mark>データを入力する</mark>		体積 (L)	0.00 L/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-100.0%
灯油	<mark>データを入力する</mark>		体積 (L)	0.00 L/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-100.0%
A重油	データを入力する		体積 (L)	0.00 L/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-
LPG	データを入力する		体積 (m3)	0.00 m3/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-
都市ガス	<mark>データを入力する</mark>		体積 (m3)	0.00 m3/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-
系統電力	<mark>データを入力する</mark>		電力量 (kWh)	0.00 kWh/10a	0.00 kg-CO ₂ e/10a	-100.0%

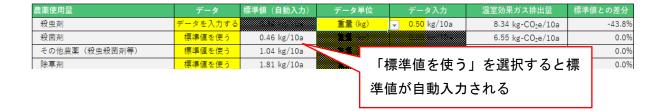
「データ」欄のセルをクリックすると、ドロップダウンリストから「データを入力する」か「標準値を使う」を選択することができます。「データを入力する」を選択する際は、データの単位に留意してご自分のデータを入力してください。

	00 kg/100			
n /)				
量 (kg) 0.0	<mark>)0</mark> kg/10a	=	のセルへ	、データ
t (kg) 0.0	<mark>00</mark> kg/10a	,	<i>LS</i> AF	.
₫ (kg) 0.0	<mark>00</mark> kg/10a	一 人	刀かり能	į
	量 (kg) 0.0	量 (kg) 0.00 kg/10a	量 (kg) 0.00 kg/10a 7	量 (kg) 0.00 kg/10a 入力が可約

データは、項目に応じた物量単位(重量(kg)、体積(L, m³)、電力量(kWh)) で入力するのが原則ですが、購入金額しかわからない場合は、データ単位列を選択することで、ドロップダウンリストから金額単位(円)も選択できます。

農薬使用量	データ	標準値(自動入力)	データ単位	データ入力	温室効果ガス排出量	標準値との差分
殺虫剤	データを入力する		重量 (kg)		8.34 kg-CO ₂ e/10a	-43.8%
殺菌剤	標準値を使う	0.46 kg/10a	重量 (kg) 全額 (円)		データ単位を	「ᄴᆖ兴᠘
その他農薬(殺虫殺菌剤等)	標準値を使う	1.04 kg/10a	max (11)		アーダ単位を	「物量単位」
除草剤	標準値を使う	1.81 kg/10a	115		と「金額」で	選択可能
	•				一一、亚斑」(

データ欄で「標準値を使う」を選択した場合、事前に簡易算定シートに保存されている標準値が自動的に入力されます。



資材等の投入量の各データの説明は以下をご覧ください。なお、入力項目について、不明な点があれば、農林水産省ホームページに記載のQ&A⁴をご参照いただくか、お近くの農政局等にお問い合わせください。

農薬使用量

殺虫剤	栽培期間中 5に対象農産物に使用した殺虫剤、殺菌剤、その他
投 菌剤	農薬(殺虫殺菌剤等)、除草剤について、10a 当たりの使用量
	(kg) ⁶ 又は使用金額(円) ⁷ を入力します。液体・固体・粉体など
その他農薬(殺虫殺菌剤等)	の性状の違いに依らず、10a 当たりの使用量もしくは使用量
除草剤	に対応した購入金額を入力します。

肥料使用量

窒素肥料(N 成分量)	化学肥料については、栽培期間中 ⁵ に対象農産物に使用した
研化抑制剤入り化学肥料(N成分量)	窒素(N 成分量)、リン(P_2O_5 成分量)、カリ(K_2O 成分
(茶のみ)	量)の 10a 当たりの使用量(kg)を入力します。堆肥(そ
	の他有機質肥料含む)については、10a 当たりの使用量
リン肥料(P ₂ O ₅ 成分量)	(kg)を入力します。(堆肥は、毎年連用していることを想
カリ肥料(K ₂ O 成分量)	定しています)。茶の場合のみ、栽培期間中に使用した硝化
	抑制剤入り化学肥料(N 成分量)の 10a 当たりの使用量(kg)
#肥(その他有機質肥料含む)	を入力できます。

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/mieruka/faq.html

⁴ よくある質問(環境負荷低減の「見える化」)

 $^{^{5}}$ 購入種苗に含まれる使用量(自らの栽培期間より以前に使用された量も含む)が把握できる場合はその量も含めてください。

⁶ 農薬の使用量は購入時の重量ベースで入力してください。

⁷「使用量」及び「使用金額」の両方の数値が手元にある場合は、誤差の小さい「使用量」を入 力しましょう。

プラスチック資材

農業用塩化ビニルフィルム	栽培期間中 ⁸ に対象農産物に使用した「農業用塩化ビニルフィルム」、「その他プラスチック類」について、10a 当たりの使用
	量(kg)又は使用金額(円) ⁷ を入力します。
その他プラスチック類	プラスチック資材が数年にわたって使用される場合、耐用年
	数等を考慮し、栽培期間に応じた使用量を推計してください。

化石燃料・電力使用量

ガソリン	
軽油	
灯油	】 栽培期間中 ⁹ に対象農産物に使用したガソリン、軽油、灯油、
A 重油	A 重油、LPG、都市ガス、系統電力について、10a 当たりの使
LPG(液化石油ガス)	用量(L ,m³,KWh)又は使用金額(円) ⁷ を入力します ¹⁰ 。
都市ガス	
系統電力	

_

⁸ 購入苗の育苗ポット容器等も含めてください(自らの栽培期間より以前に使用された量も含みます)。

⁹ 栽培に先立ち農薬・肥料等の資材を購入するための移動や、収穫後の倉庫等への移動に係る燃料も含めてください。また、米については、乾燥・調整に係る電気や燃料も含めてください。 10 施設栽培では、ハウス暖房で使用する燃料・電力による GHG 排出量の割合が大きいことが予想されるので、入力値の転記ミスや用途の不一致がないか確認の上、入力してください。

(注釈1) 自らのデータ入力が特に推奨される項目

GHG 排出量の寄与が大きく、かつ、生産者自身のデータの入力が困難でないと判断される以下の項目については、標準値を使わず、極力、自らのデータを入力することが望まれます。

ア 品目共通

- ・農薬使用量(殺虫剤、殺菌剤、除草剤、その他農薬)
- ・肥料使用量(窒素肥料(N 成分量)、リン肥料(P_2O_5 成分量)、カリ肥料(K_2O_5 成分量))

イ 施設栽培野菜・果樹

アに加えて、以下の項目へのデータ入力を推奨。

・燃料・電力使用量(軽油、A 重油、LPG、都市ガス、系統電力)

なお、複数の品目を栽培しているなど、他の農産物分も含む総使用量のみが分かる場合の対応については、(注釈 2) をご参照ください。

(注釈2) 複数の農産物を生産している場合の推計方法

複数の品目を栽培しているなど、資材やエネルギーについて、他の農産物栽培にかかった分も含む総使用量のみが分かる場合、品目毎の栽培面積、収穫量、車両や機械の使用時間、あるいは出荷金額等に基づいて按分し、算定対象の農産物分の使用量を推計して入力することも可能です。

なお、按分方法によって推計使用量に大きく差が出る場合は、実態と乖離して環境 負荷が低い評価とならないよう、想定される範囲で環境負荷が大きくなる方法を選択 する等の工夫が必要です。

栽培面積に基づく按分の例:

殺虫剤の年間使用量:150kg

各農産物の栽培面積:トマト露地 30a、なす露地 20a

トマト: 150kg/(30a+20a)=3kg/a、10a 当たりの使用量 30kg/10a なす : 150kg/(30a+20a)=3kg/a、10a 当たりの使用量 30kg/10a

(3) 生物多様性保全取組のデータ入力

生物多様性保全取組の評価を行うには、「データ入力・結果表示シート(多様性) Ver.2.0 | に次の手順で入力してください。

<概要>



- ① 生産者情報等が自動で入力されます。
- ② 各評価対象の取組について 実施したかどうかを選択し、 実施したものについて取組 状況を入力してください。
- ③ 保全取組に係る特記事項に ついて、任意で記載してく ださい。

<対象取組・特記事項の入力について>

②の箇所に対象取組について入力してください。実施している取組について、「実施(取組要件に合致)」(化学農薬・化学肥料の低減については、「どちらも5割以上減」又は「どちらも栽培期間中不使用」)をドロップダウンリストから選択すると、取組状況の入力欄が表示されます。

取組要件は、ガイドライン第1部 P42~48、及び第2部 P21~23(表5)をご確認下さい。

○ 化学農薬・化学肥料の低減

「どちらも5割以上減」を選択すると、本栽培に係る記録と、都道府県が定める地域慣行基準の記入欄が表示されます。本栽培に係る化学肥料窒素成分量は、「データ入力シート Ver.2.0」から自動入力されます。黄色のセルに情報を入力し、本栽培に係る化学農薬及び化学肥料が、都道府県が定める地域慣行基準の5割以下であることを確認してください。都道府県が定める地域慣行基準の欄には、5割の値ではなく慣行の値を入力することに留意してください。

化学農薬・化学肥料の低減	⇒栽培に	係る	農薬使用成分回数		回	←化学農薬・化学肥料の5割以上減
化学農薬(節減対象農薬)の成	どちらも5割以上			データ入力シート に入力ください	kg/10a	または栽培期間中不使用の場合に記
分使用回数、化学肥料の窒素成分 量を地域の慣行レベルから低減)	減 都道府県		農薬使用成分回数	EXXX TICE V	同	入してください。特別栽培の栽培管 理記録等を添付いただく場合は入力
里で地域の頂1]レベルがら心成/	める地域 基準		化学肥料窒素成分量		kg/10a	不要です。

「どちらも栽培期間中不使用」を選択すると、本栽培に係る記録の記入欄が表示されます。化学農薬を使用していないことについて「0」と入力してください。化学肥料窒素成分量は「データ入力シート Ver.2.0」から自動入力されます。

化学農薬・化学肥料の低減	本非	本栽培に係る記	農薬使用成分回数		回
(化学農薬(節減対象農薬)の成	どちらも栽培	録	化学肥料窒素成分量	0	kg/10a
分使用回数、化学肥料の窒素成分	期間中不使用				
量を地域の慣行レベルから低減)					

〇 冬期湛水

湛水期間及び湛水状態確認日を入力してください。

冬期湛水(栽培期間外に2か月以	実施(取組要件	 				
上湛水)	に合致)	月	~		月	

○ 中干し延期または中止

中干しの有無をドロップダウンリストから選択してください。中干しを行った場合は、中干し開始日を入力してください。また、確認した生物種をドロップダウンリストから選択してください。具体的な種名を確認している場合や、リスト以外の生物種を確認している場合は具体的に記載してください。

中干し延期または中止(ヤゴやオタマ	実施(取組要件に合致)	中干しの有無	中干し開始日	確認した生物種を記載してください。	(選択または自由記載)
ジャクシが変態後に中干し等)	天肥(収租女件に自奴)				
江の設置等(湛水が保たれる溝を設	Profile. 1			カエル(成体)	
置)	取組なし			トンボ (成虫又はヤゴの抜け殻)	
				カエル(成体)とトンボ(成虫又はヤゴの抜け影	i)

○ 江の設置等

江の設置状態の確認方法をドロップダウンリストから選択又は入力してください。リスト以外の管理を行っている場合は具体的に記載してください。

江の設置等(湛水が保たれる溝を	実施(取組要	江の設置状態を確認し、その記録方法を記載してください。(選択又は自由記載)
設置)	件に合致)	
魚の保護(魚道の設置等)	取組なし	設置位置や大きさを記帳している 写真で記録している

○ 魚の保護

魚道等の水田と取水/排水路間の魚類が行き来できる場所の設置状況の確認や 管理の記録方法についてドロップダウンリストから選択してください。リスト以 外の管理を行っている場合は具体的に記載してください。

魚の保護(魚道の設置等)	実施(取組要	魚道等の設置状況確認及び管理をし、その記録方法を記載して下さい。	(選択又は自由記載)
	件に合致)		▼
畦畔管理(除草剤を使用しない管		設置状況や管理を記帳している 設置状況を写真で記録し、管理を記帳している	

〇 畦畔管理

畦畔の管理方法を入力してください。ドロップダウンリストには、「草刈り機等による物理的除草」、「カバークロップ」が設定されています。該当する場合は選択してください。それ以外の管理を行っている場合は具体的に記載してください。

畦畔管理(除草剤を使用しない管	実施(取組要	畦畔の管理方法を記載してください。(選択又は自由記載)	
理)	件に合致)		~
(注)対象取組の詳細については農産物の環	境負荷低減に関する	草刈り機等による物理的除草 カパークロップ	

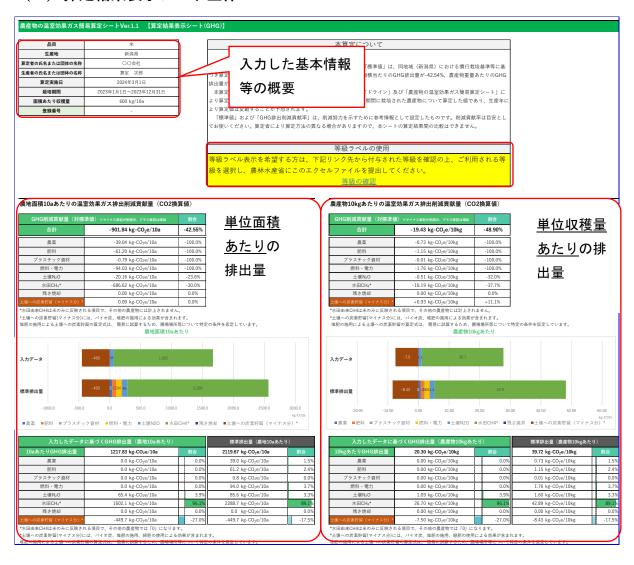
③の箇所に、特記事項として、

- ・保全対象としている生物種
- ・保全取組の詳細やその他配慮事項
- ・生き物調査を実施している場合の方法や対象生物、実施主体 を記載してください。記載は任意です。

4. 簡易算定シートの算定結果の見方

「データ入力シート」への入力を完了すると、「算定結果表示シート」に、入力されたデータに基づいた温室効果ガス排出量(CO_2 換算値)が自動で算定されます。上段には入力した基本情報等の概要が示され、下段には、単位面積(10a)あたり(シート左下)と単位収穫量(10kg)あたり(シート右下)温室効果ガス排出量(CO_2 換算値)が示されます。

(1) 算定結果表示シート全体



(2) 基本情報の概要

品目	*
生産地	新潟県
算定者の氏名または団体の名称	○○会社
生産者の氏名または団体の名称	算定 次郎
算定実施日	2024年3月1日
栽培期間	2023年1月1日~2023年12月31日
面積あたり収穫量	600 kg/10a
登録番号	-

データ入力シートに入力した内容に基づいて<u>自動で転記されます</u>。

(3) 農地面積 10a あたりの排出量

農地面積10aあたりの温室効果ガス排出削減量(CO₂換算値)

GHG削減貢献量(対標準値)※マイナス表記が削減分、プラス表記は増加割合				
合計	-316.33 kg-CO ₂ e/10a	-22.25%		
農薬	+10.61 kg-CO ₂ e/10a	+27.2%		
肥料	+55.80 kg-CO ₂ e/10a	+91.2%		
プラスチック資材	-0.79 kg-CO ₂ e/10a	-100.0%		
燃料・電力	+21.50 kg-CO ₂ e/10a	+22.9%		
土壌N ₂ O	+25.31 kg-CO ₂ e/10a	+80.6%		
水田CH ₄ *	-428.76 kg-CO ₂ e/10a	-30.0%		
残さ焼却	0.00 kg-CO ₂ e/10a	0.0%		
土壌への炭素貯留(マイナス分)*	0.00 kg-CO ₂ e/10a	0.0%		

標準値と比較した温室効果ガス排出<u>削減貢献量</u> (ーマイナス表記が削減貢献量、+プラス表記 は増加量を示す)

標準値による当該入力項目由来の排出量を 100% とした場合の、温室効果ガス排出<u>削減貢献割合</u> (ーマイナス表記が削減貢献割合、+プラス表 記は増加割合を示す)

堆肥の施用による土壌への炭素貯留の算定式は、 簡易に試算するため、圃場場所等について特定の条件を仮定しています。

農地面積10aあたり



入力したデータに基づくGHG排出量(農地10aあたり)			標準排出量(農地10aあたり)
10aあたりGHG排出量	1105.55 kg-CO ₂ e/10a	割合	1421.89 kg-CO ₂ e/10a	割合
農薬	49.6 kg-CO ₂ e/10a	3.7%	39.0 kg-CO ₂ e/10a	2.4%
肥料	117.0 kg-CO ₂ e/10a	8.7%	61.2 kg-CO ₂ e/10a	3.7%
プラスチック資材	0.0 kg-CO ₂ e/10a	0.0%	0.8 kg-CO ₂ e/10a	0.0%
燃料・電力	115.5 kg-CO ₂ e/10a	8.6%	94.0 kg-CO ₂ e/10a	5.7%
土壌N ₂ O	56.7 kg-CO ₂ e/10a	4.2%	31.4 kg-CO ₂ e/10a	1.9%
水田CH ₄ *	1000.4 kg-CO ₂ e/10a	74.7%	1429.2 kg-CO ₂ e/10a	86.3%
残さ焼却	0.0 kg-CO ₂ e/10a	0.0%	0.0 kg-CO ₂ e/10a	0.0%
土壌への炭素貯留(マイナス分)*	-233.8 kg-CO ₂ e/10a	-17.5%	-233.8 kg-CO₂e/10a	-14.1%

ご自分の入力データから算定 した温室効果ガス排出<u>量</u> ご自分の入力データから 算定した温室効果ガス排 出量の排出項目別割合

標準値データから算定した温 室効果ガス排出<u>量</u> 標準値データから算定し た温室効果ガス排出<u>量</u>の 排出項目別割合

^{*}水田由来CH4は米のみに反映される項目で、その他の農産物には計上されません。

^{*}土壌への炭素貯留(マイナス分)には、バイオ炭、堆肥の施用による効果が含まれます。

(4)農産物 10kg あたりの排出量

農産物10kgあたりの温室効果ガス排出削減貢献量(CO2換算値)

GHG削減貢献量(対標準値	割合	
合計	-8.36 kg-CO ₂ e/10kg	-31.57%
農薬	+0.01 kg-CO ₂ e/10kg	+1.6%
肥料	+0.73 kg-CO ₂ e/10kg	+54.7%
プラスチック資材	-0.02 kg-CO ₂ e/10kg	-100.0%
燃料・電力	-0.56 kg-CO ₂ e/10kg	-30.0%
土壌N ₂ O	+0.13 kg-CO ₂ e/10kg	+23.3%
水田CH ₄ *	-8.91 kg-CO ₂ e/10kg	-35.1%
残さ焼却	0.00 kg-CO ₂ e/10kg	0.0%
土壌への炭素貯留(マイナス分)*	+0.26 kg-CO ₂ e/10kg	+7.3%

^{*}水田由来CH4は米のみに反映される項目で、その他の農産物には計上されません。

堆肥の施用による土壌への炭素貯留の算定式は、簡易に試算するため、圃場場所等について特定の条件を仮定しています。



入力したデータに基づくGHG排出量(農産物10kgあたり)			標準排出量(農産物10kgあた	9)
10kgあたりGHG排出量	18.12 kg-CO ₂ e/10kg	割合	26.48 kg-CO ₂ e/10kg	割合
農薬	0.83 kg-CO ₂ e/10kg	3.9%	0.82 kg-CO ₂ e/10kg	2.7%
肥料	2.05 kg-CO ₂ e/10kg	9.6%	1.33 kg-CO ₂ e/10kg	4.4%
プラスチック資材	0.00 kg-CO ₂ e/10kg	0.0%	0.02 kg-CO ₂ e/10kg	0.1%
燃料・電力	1.31 kg-CO ₂ e/10kg	6.1%	1.87 kg-CO ₂ e/10kg	6.2%
土壌N ₂ O	0.71 kg-CO ₂ e/10kg	3.3%	0.58 kg-CO ₂ e/10kg	1.9%
水田CH ₄ *	16.46 kg-CO ₂ e/10kg	77.0%	25.37 kg-CO ₂ e/10kg	84.6%
残さ焼却	0.00 kg-CO ₂ e/10kg	0.0%	0.00 kg-CO ₂ e/10kg	0.0%
土壌への炭素貯留(マイナス分)*	-3.25 kg-CO ₂ e/10kg	-15.2%	-3.50 kg-CO ₂ e/10kg	-11.7%

各項目の説明は前ページの(3)農地面積10aあたりの排出量と同じです。

^{*}土壌への炭素貯留(マイナス分)には、バイオ炭、堆肥の施用による効果が含まれます。

(5) 生物多様性保全の取組の評価

生物多様性については、取組の入力と同じシートに $1 \sim 3$ 個の星の数で結果が表示されます。

	N/A	
品目	*	
生産地	新潟県	保全対象としている生
氏名または団体の名称(必須)	○○会社	
生産者の氏名または団体の名称	算定 次郎	保全取組詳細やその他質
算定実施日	2024年3月1日	
栽培期間	2023年1月1日~2023年12月31日	
栽培延べ面積	10 a	
延べ収穫量	600 kg	生き物調査を実施している場合、大
登録番号	-	
評価結果	***	

こちらに表示される星の 数が結果です

(6) 結果の解釈等について

ア 簡易算定シートでできること

- 簡易算定シートの結果から、化学肥料の削減や省エネルギーによる化石燃料の使用量削減、農地へのバイオ炭の施用などの農業者等による地域における温室効果ガス削減への貢献の努力・工夫を見える化できます。
- 温室効果ガスの排出量が多い工程や、土壌への炭素貯留の効果などを定量的に把握できます。
- 単位面積(10 a)当たり及び単位出荷量(10 kg)当たりの排出量が把握できます。
- 前作と今作の排出量を比較することで経時的な増減状況を把握できます。
- 地域の慣行農法を基に算定された標準排出量と比較して、削減貢献量や削減貢献率を算出できます。

イ 簡易算定シートの利用にかかる留意点

- 算定値は一定の仮定のもとに算出されたものであり、算定値には不確実性を伴います。
- 農産物の生産段階の排出量であり、生産段階の後の段階(製造・加工、流通、使用、廃棄等)からの排出量を含みません。
- 簡易算定シートにより算定した温室効果ガス削減への貢献や生物多様性保全の 取組について、ガイドラインにしたがってラベル表示をする場合には、実際に算定 に利用した簡易算定シートの「メインシート」に、下記の手順で情報を入力いただ

き、農林水産省まで電子メールで報告してください。 算定結果表示シート右上から、「等級の確認」をクリックし、メインシートに戻ります。

等級ラベルの使用				
級ラベル表示を希望する方は、下	記リンク先から付与されま	た等級を確認の上、ご利用される等級		
選択し、農林水産省にこのエクセル	ルファイルを提出してく: <u>等級の確認</u> ——	ださい。 等級の確認をクリック		
③等級確定及び農林水産省への報告				
等級ラベル表示を希望する方は、使用する等級にチェック	をし、このエクセルファイルを農林水産:	省にメールで送付してください。		
栽培情報				
品目	*			
生産地	新潟県			
等級情報(等級ラベル表示を希望する方は、等級の結果を	確認のうえ、ご利用する等級を選択して	ください。面積と重量の両方を選択することも可能です。)		
温室効果ガス削減等級(面積)	***	この等級を利用		
温室効果ガス削減等級(重量)	***	この等級を利用		
等級情報(等級ラベル表示を希望する方は、等級の結果を確認のうえ、ご利用する等級を選択してください。)				
生物多様性保全の等級	***	この等級を利用		
登録番号				
登録番号	-			
		利用する等級を選択		

メインシート③「等級確定及び農林水産省への報告」に算定結果に基づく等級が示されているので、ご利用される等級を、黄色セルのプルダウンリストから選択してください。これらの作業が終了しましたら、農林水産省に算定シートを送付してください。

ウ その他

- 報告いただいた情報は、ラベル表示とその算定根拠とのトレーサビリティ確保の 観点から、報告いただいた算定結果に対して登録番号を付与するために使用します。 登録番号と品目名は農林水産省のホームページで公表します。
- 情報の取扱いについて、詳しくは「プライバシーポリシー」をご参照ください。